

グアム（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [ロサンゼルス日本文化センター](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
1	1	60	10	13	743	2	3	90	0	0	0	12	17	893

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

グアムの学校教育の中の主たる外国語は日本語とスペイン語である。これはグアムの歴史的背景が大きな要因であると思われる。それは300年にわたるスペイン統治、フィリピンとの関係（スペイン語）、第二次世界大戦以前の日本からの移住者の定住（ヤマシタ、シミズ、オネデラなどは現地ファミリーネームとして定着）等の影響によるものであろう。

外国語としての日本語教育は1960年代後半から70年代にかけて実施されるようになり、特に1970年代からの観光業の発展に伴い、日本からの企業の進出、移住者や旅行者の増加を通して実質的な発展を遂げた。バブル経済時にも年間旅行者数は増え続け、その数は2005年頃までに100万人を超えた。日本人旅行者を主な対象とする観

光業、ホテル業、販売業、飲食業では日本語話者は雇用機会に恵まれ、就業とベースアップにも繋がった。近年は韓国（旅行者数は現在日本を抜いて第1位）、中国、台湾、そしてロシアからの旅行者が増加し、日本語以外の外国語教育の必要性も増しているのが実情である。しかし依然として、教育現場においては現在も日本語が筆頭の外国語として位置づけられている。

高等教育の現場では、1952年創立のグアム大学（2年制教員養成機関）が1965年に4年制大学として認定され、外国語としての日本語講座はその頃に開始した。2年制短期大学のグアムコミュニティカレッジにおいては、日本語講座は創立当初の1977年から設置されていたものと思われる。

中等教育の現場では、1970年にジョンFケネディ高校（公立）に日本語講座が設置されたのが最初で、他の公立高校にも相次いで導入された。私立高校では1960年代後半から70年代前半にかけて殆どの学校で日本語講座が導入された。中学校での日本語講座は、1995年にウンタラン中学校（公立）で選択科目として初めて導入されたが、高校ほど安定的ではなく（日本語教師の有無、他の選択科目との競合）、公立・私立とも1セメスターの選択科目として導入されている程度（全校ではない）。

グアムにおける日本語教育は、長きにわたり（少なくとも2010年ごろまでは）上向きの成長を続けていたが、現在はヘリテージ・ランゲージであるチャモロ語の必修科目化（公立高校）、大学における必修外国語の履修期間の短縮（2セメスターから1セメスター）、日本語専攻の廃止など、履修学生数の減少傾向が見られる。また、2020年3月16日に始まった自宅待機措置によりサービス産業は外国人観光客を失い、2022年～23年においてもその回復は芳しくなかった。更に現在は円安の影響を受けて多少回復傾向にあった日本人観光客も回復が止まりつつあるが、その中で中学や高校の修学旅行が再開傾向にあって、文化交流の機会増の様子が感じられる。しかし、韓国あるいは中国からの旅行者の増加は顕著で、レストランのメニュー等を見ても英語、日本語に加えて韓国語と中国語の併記されている場合が増加している。

背景

グアムでは中等・高等レベルの学校教育で「外国語としての日本語教育」を行う一方、観光業においても「現場の日本語＝接客のための日本語教育」を同時に行ってきた。グアムの主力産業が観光業であることから、免税店やホテル、あるいは旅行代理店などのサービス産業が日本語教育を必要とし、また就労者に現場に必要な日本語を教育してきた。グアムの日本語教育は、学校教育機関における外国語教育としての日本語と、観光産業と結びついた現場の日本語（接客の日本語）教育という二本の柱をもって発展してきたと言えるだろう。しかし近年、特にコロナ禍以降、急激な円安が続き日本人旅行者が減少した後も回復は思うようには見られず、韓国人旅行者数が現在日本を抜いて第1位となり、韓国及び中国からの企業進出も増えている中で、70年代から続く老舗企業を除き、主にホテル業などは日本資本から韓国資本へと入れ替わりが続いている。このため学校外での外国語表示に関しては韓国語・中国語が増加している。以上のことから、現在の日本語教育の現場では、日本語発展初期に培われた産業と結びついた日本語教育は薄れ、アニメやポップカルチャーに興味を抱く学生生徒が履修する傾向にある。

特徴

学校教育の現場では、日本のアニメやゲームなどのポップカルチャーファンの学生が多く、日本語で日本のアニメを見ることを学習目的としている者も多い。総人口17万人のグアムにおいて、中学・高校だけで年間約1,000人前後、大学も合わせると計1,300人ほどの学生が日本語を学んでおり、人口に対する日本語学習者の比率は他州

と比べても非常に高いと言える。

高等教育機関はグアム大学(4年制)とグアムコミュニティカレッジ(2年制)の2校あるが、共に外国語選択科目として日本語が常設されている。グアムの主要産業と関連して、両校とも日本語の開講クラス数及び履修者が他の外国語よりも多いのが特徴である。

公立6高校のうち日本語が開設されている4校では10年生からの選択科目として日本語講座が常設されており、DODEA校(米国防総省直轄校)と私立高校では必修選択科目(主要な私立高校7校のうち5校は10年生から、2校は9年生からの必修選択科目)として日本語講座が常設されている。

中学校は、中高一貫プログラムとして常設されている私立を除いて、公立の2~3校および私立の2~3校に1 Semester(半年間)の選択科目として日本語が設置されているが、受講者数や教員の状況により常設でないこともある。中学校における日本語教育は、ひらがなや名詞などの日本語や挨拶や簡単な会話や行事などの日本文化に親しむことに重点がおかれている。

最新動向

公立高校では、かつては大学進学を希望する生徒は2年間の外国語履修が必須となっていたが、2010年度からこのルールが一部緩和、変更された。また近年、公立高校(全6校)において、ヘリテージ・ランゲージのチャモロ語が必修科目となったことで、選択科目である日本語やスペイン語は履修者数が減少傾向にあり、スペイン語に至っては講座閉鎖となるケースも見られる。日本語については引き続き常設外国語(選択科目)として開講されているものの、各公立高校の日本語教師数は、かつての2名体制から1名体制へと変わり、日本語から他の教科に回す等して、教師枠の調整を行っている模様である。なお、私立校から公立校に転校した場合、前の学校で日本語或いはスペイン語などを履修していてもチャモロ語を必修選択せねばならなくなり、外国語を継続できない場合がある。DODEA校においては、中国語、スペイン語、日本語は従来どおりの教室での授業形態をとっているが、他の外国語に関してはインターネットによる通信教育を行っている。

私立高校では全ての学校(全7校)で外国語が必修選択科目になっており、生徒全員が最低2年間の外国語を履修している。外国語の選択肢は日本語かスペイン語となっているが、2019年度からチャモロ語を外国語として正式採用した高校が1校あり、日本語履修者数はわずかに減少した。しかし、私立高校に通う生徒の約半数が日本語を履修しており、残りの半数の大半がスペイン語、その残りの少数が中国語、フランス語、あるいはチャモロ語を履修している状況であり、依然として日本語講座の人気は高い。

一方、大学の一般教養課程での外国語履修は縮小傾向にあり、従来はJapanese101および102が必修だったものが2017年度秋Semester入学者よりJapanese101のみ必修となった。また、400レベル:日本文化専攻が2015-16年度から廃止となった。

近年、日本の大学が諸外国からの留学生受け入れを積極的に行っていることから、日本への留学を希望する学生が増えている。大学在学中の短期留学、高校卒業後の日本への進学など、その方向は多様である。さらに、定期的に行われる大学説明会もアメリカ本土及びグアム大学だけでなく、日本の国立大学、私立大学からの出展も増えている。

2020年3月15日からグアムは自宅隔離が実施され、大学を含む公私立全校が全クラスオンラインに移行した。2020—21年度は授業が開講されたものの、わずか数週間で自宅隔離再開、全ての学校がオンライン授業に移行し

た。第3クォーター以降、一部の学校で Face to Face とオンラインの併用（マスク着用、教室内の除菌）開始。2021-22年度は併用クラスもしくはオンラインで授業が再開されたが、2022年新学年度には大学、高校、中学校及び小学校の全ての学校が Face to Face に復帰した。

教育段階別の状況

初等教育

私立一校のみで行われている。

中等教育

2025-26年度現在、中学校レベルでは私立の1校を除いて公立・私立とも日本語は半年単位の選択科目であり、年間通して公私立全5~7校で約250~300名が受講している。グアム教育省では2015-16年度に公立中学校統一の Teaching Plan を作成するなどして発展を見せたが、作成当時の教師も異動してしまい、現在は個々の講座の状況や教師自身のスキル等によって使用状況は異なる。私立校は教育省の Teaching Plan とは別に独自に授業を行っている。

公立高校は全6校のうち4校と DODEA 校で日本語1と2（このうち2校は日本語3まで）を開講しているが、AP試験、SATは行われていない。私立高校は全7校に日本語プログラムが常設されており（うち1校は日本語4、5までが常設）、IB試験、AP試験、SAT等の試験も実施している。公立・私立合わせて年間およそ750名前後の高校生が日本語を履修している。コロナ禍以前は多くの学校で日本からの修学旅行生徒との文化交流の機会があったが、2020年の3月の自宅隔離措置により、すべての機会は失われていた。しかし、旅行者数は十分に回復していないものの2022年以降、旅行代理店による修学旅行誘致等により、2023年夏以降、修学旅行や研修・キャンプなどの来島が上昇傾向にある。2023-24年度には文化交流の機会が再開し、現在は増加傾向にある。

高等教育

グアムコミュニティカレッジでは日本語101と102（年間100名程度）、グアム大学では日本語101から副専攻までのコースと Tourism Japanese が常設されており、2つの大学を合わせて年間合計350~400人の履修者を数える。残念なことに、上述のとおり、グアム大学では2015-16年度に日本文化専攻がなくなり、現在は副専攻のみとなっている。また、一般教養課程での外国語履修が縮小傾向にあり、従来は Japanese101 および 102 の両方が必修だったものが、2017年度秋セメスター入学者から Japanese101 のみの必修となっている。これに伴い、グアム大学では、かつて常勤講師3名および非常勤講師3名が日本語講座を担当していたが、現在（2025）は常勤講師2名、非常勤講師1名で開設されている。

学校教育以外

代表的な日本語教育機関は日本人学校の日本語クラスである。日本人学校の日本語クラスでは学生及び一般社会人に対する日本語講座が週1~2回開講されている。観光業における接客日本語は日本人観光客が軌道に乗っていないこともあり、必要であれば過去に学習した人材で現場を維持している模様。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

5-3-4 制。

1-5 年小学校、6-8 年中学校、9-12 年高等学校。

アメリカ本土と同様に 1~12 年までが義務教育である。日本語は、公立中学校では 8 年生からの選択科目、公立高校は 10 年生からの選択科目、私立高校は 9 あるいは 10 年生からの 2 年間の選択必修科目になっている。

高校卒業後のグアムの高等教育機関は、グアムコミュニティカレッジ（2 年制）とグアム大学（4 年制及び修士課程 2 年制）がある。日本語はグアムコミュニティカレッジとグアム大学での各 2 セメスター（日本語 101, 102）と、その後はグアム大学の副専攻コースまでが設置されている。

教育行政

- 公立小中高校：グアム教育省 Guam Department of Education
- グアムコミュニティカレッジ：グアム教育省 Guam Department of Education
- グアム大学：グアム教育省 Guam Department of Education
- DODEA 校：米国防総省 Department of Defense
- カトリック系私立学校：Catholic School System
- 私立学校：各 School System

言語事情

公的言語はチャモロ語（現地語）と英語であるが、主要言語は英語である。昨今のグアムではヘリテージ・ランゲージであるチャモロ語の危機が叫ばれ、公立高校でのチャモロ語の必修化やグアムスタディーズの見直しがなされている。1950~1960 年代にはチャモロ語よりも英語を話す事を主としていたが、最近では自分たちのオリジナル言語を使うムーブメントが大きな力を持ってきている。また、グアムの地政学的条件により、フィリピン等のアジア各国、ミクロネシア各国及び地域や、最近ではロシアからの移住者も多い。それら移住者の家庭では英語が第二言語、外国語履修は第三言語になる事がある。グアム以外からの移住者の使用言語は先に述べた地域によるが、タガログ語使用者の人口割合が圧倒的に多く、続いて韓国語、中国語、台湾語、日本語と続き、太平洋島嶼国諸語と続く。

外国語教育

外国語教育は公立・私立とも中学校から選択科目として設置されている。中学校の主な外国語はスペイン語と日本語（カトリック校では他にラテン語もある）で、8 年生の 1 セメスターの選択科目（私立 1 校は 6 年生からの通年選択科目）となっている。公立高校は 10 あるいは 11 年生からの選択科目として外国語が設置されているが、へ

リテージ・ランゲージとしてのチャモロ語は1年生の必修言語科目である。私立高校は3年間必修の1校を除き、全校2年間の選択必修科目である。選択言語はスペイン語、日本語が主流で、中国語、フランス語、チャモロ語がある学校もある。

外国語の中での日本語の人気

グアムでは引き続き日本語の学習者が多い。特に若年層は日本のアニメやゲームなどのポップカルチャーのファンが多く、日本語で日本のアニメを見ることを学習目的としている者も多い。また、中学校では日本からの修学旅行生との交流経験を通して日本語を選択する学生も多い。

大学入試での日本語の扱い

大学入学のための成績証明には2年以上の外国語履修が必修とされる場合があるが、アメリカ本土の大学では外国語必修を問わないところも増加している。グアム大学は高校での外国語履修を問わない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は私立一校以外確認されていない。

中等教育

公立中学校の日本語教育においては、日本語、あるいは日本や日本文化に親しむことに焦点を当てており、特に教科書は使用されていない。半年間の選択科目を設定している公立私立とも、ひらがな、カタカナのフラッシュカード、日本地図、教師作成のパワーポイントなどが使用されている。

Catholic school system では 2009 年に全科目の共通指導要綱が作成されており、公立高校は 2016～2018 年度に全校共通の指導計画設定（レベル 1 と 2）作業を行った。公立高校の教科書に関してはグラントの申請とともに提案が行われているが、予算の関係上実現されていない。現場では教師用参考図書として『Elementary Japanese げんき：坂野永理ほか（The Japan Times）』あるいは『YOOKOSO! : Yasu-hiko Tohsaku (McGraw Hill)』が利用されている。私立高校では『Adventure in Japanese : Hiromi Peterson & Naomi Hirano-Omizo (Cheng & Tsui)』『YOOKOSO! : Yasu-hiko Tohsaku (McGraw Hill)』『Elementary Japanese げんき：坂野永理ほか（The Japan Times）』が使用されている。また、公私立高校とも市販あるいは手作りのフラッシュカード、映画あるいはテレビ番組等、パワーポイント、カレンダーやポスター、旅行者用のパンフレットなどを利用している。学校、教師によるが、教室内でのスマホ利用、PC 利用も可能である。

高等教育

グアム大学では 101 から 200 レベルの教科書は『Elementary Japanese げんき I & II : 坂野永理ほか（The Japan Times）』あるいは『YOOKOSO! / An Invitation to Contemporary Japanese and Continuing with

Contemporary Japanese : Yasu-hiko Tohsaku (McGraw Hill)』を使用し、中上級レベルは各インストラクター及びレベルに合わせた教材を用いている。また、LL 教室とラボで視覚聴覚的なアプローチも可能になっている。一方グアムコミュニカレッジは『YOOKOSO! / An Invitation to Contemporary Japanese : Yasu-hiko Tohsaku (McGraw Hill)』を用いている。コンピューターが設置された教室では視覚聴覚的なアプローチも可能になっている。

学校教育以外

日本人学校で小・中学生向きクラスが開設され、「塾」の形態をとっているが、決まった教科書を使用しているというようなことは把握していない。また、日本企業内での従業員教育としての日本語教育は接客を目的としているので、業種にあった対応を想定してのロールプレイが主流であるが、現在は行われていない模様。

IT・視聴覚機材

DODEA 校は 2010 年前後には既に十分なデジタル化が終了していた。現在、公立高校でも同様にデジタル化が進められている。公立高校は、新設高校と改築校から先行してデジタル化が進んでいる。私立高校では 2010 年以降デジタル化が急速に進み、殆どの学校でモニターやプロジェクターが設置されている。電子書籍の教科書が採用される科目も多い（日本語は未だ実現せず）。

グアム大学では 2001 年春に L.L. のデジタル化を行って以来キャンパス内の Wi-Fi、各クラスルーム内でのデジタル化が進んだ。グアムコミュニカレッジもコンピューター設置、校内 Wi-Fi 化は対応済みである。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は私立一校を除いて確認されていない。しかし公立の教師資格については中等教育者資格と同じである。私立については各学校による。

中等教育

公立校の場合、学士号取得に加え Praxis (I / II) に合格しないと普通教員免許（3 年ごとの更新）が授与されない。私立校の場合は、多少違いがあるが学士号取得はほぼ必須条件である。公立校の場合は、免許の更新、給与待遇に違いが出るため修士号を持つ教員も多い。高校の日本語教師のうち 4 名が修士号取得者である。（「日本語教育 国・地域別情報」米国ページを参照。）

高等教育

グアム大学では准教授以上は博士号を求められる。非常勤教師（adjunct）は、通常修士号以上を求められる。グアムコミュニカレッジでも最低限学士号あるいは修士号の取得が求められる。

学校教育以外

特に基準はないようだが、日本人の講師が多く、企業内では、学士号取得者及び上席者が大半を占めている。

日本語教師養成機関（プログラム）

グアム大学で日本語を2セメスター以上受講し、Praxis I、又はIIに合格することによりグアム教育省の発行する中等教育日本語教員免許（日本語）を受けることが出来る。また、グアム大学卒業と同時に日本のJETプログラムに応募し、日本語を更に学んでからグアムの学校で日本語を教えることを希望する学生もいる。日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

大学、コミュニティカレッジ、及び公私立中学を含むグアムの全日本語教師21～23名のうち9名が日本人であるが、中学校の日本語教師の全員がノンネイティブ教師である。日本人学校補習校ではプリスクールから中学3年生までのクラスを非常勤講師が受け持っているが、その全員が日本語のネイティブ教師である。

公立校はグアム教育省の教員資格が必須であるため、大学での必要単位の取得（あるいは再取得）とPraxis合格を含めて日本語母語話者には厳しい状態であり、現在公立高校の日本語のネイティブ教師は1名である。公立高校では米国内大学の入学資格から外国語履修の必修が削減されている状況下、外国語教師数やクラス数の縮小も重なり、国籍に関係なく日本語教師の資格はあっても教師ポストの空きがないという状態となっている。私立校は米国の教員資格がなくとも採用の機会があり、各外国語とも母語話者を教師としているため日本人が職を得る機会があるが、公立私立ともに誰かが退職しない限り次の機会は訪れないのが実情である。

教師研修

グアム日本語教師会（Guam Nihongo Teachers Association）がメンバー教師を対象としたワークショップを開催している。ワークショップのゲスト講師については、米国本土から招くとコストが高む為、グアム内の大学講師に依頼するケースが多い。私立校においては日本でのワークショップ（AP日本語およびIB日本語）の為に学校から100%の資金援助を受けて継続参加している。

現職教師研修プログラム（一覧）

国際交流基金の研修以外に、特に明記すべきグアム独自の教師研修プログラムは現在のところない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

グアム日本語教師会（Guam Nihongo Teachers Association: GuNTA）が中心となり、日本語教育関係者のネットワークを構築している。教師会の会員は全教育レベルを対象とし、高校の日本語教師が中心となっているが2022-2023年度は中学校の日本語教師の参加があった。主な活動としてワークショップや学習者向けのイベント（日本語祭りや日本語チャレンジボウル）があった。2020年3月以来オンラインミーティングのみでコミュニケーションを継続していたが、2021-22年度よりオンラインとFace to Face併用の定例会を開催し、現在に至る。また2022年及び2023年4開催のOnline Guam Nihongo Challenge Bowlを経て、2024年4月はフィジカルでゲームを開催し、2025年、2026年と継続している。過去に開催を試みた日本語祭りに関しては依然検討中である。加えグアム日本語スタンダードは活動休止中で、今後再開を検討する予定である。

最新動向

Guam Nihongo Challenge Bowl 開催に向け準備中。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICAからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

私立一校のみで行われている。

中等教育

グアム教育省は、米国のナショナルスタンダードに類似したカリキュラム・ガイドラインを公開しており、公立初等・中等教育機関では、このガイドラインに準拠したカリキュラムでのコース運営が求められている。しかし、ナショナルスタンダードとは違い、言語ごとのガイドラインはなく、全外国語共通のものとなっている。

私立校に関しては、3、4レベルとAP日本語、IB日本語のプログラムとの関連から、各校のCommon Coreに準拠しつつそれぞれプログラムを構成している。

グアム教師会では2009年度にカリキュラム、教科書が異なる各校が共通に参考にできる「日本語ガイドライン」を編纂。「日本語チャレンジボウル」等の問題作成の際の目安になると共に、各校の日本語教師にとっても指導計画の内容と照らし合わせ参考にすることが出来る。「日本語ガイドライン」はレベル別（1 & 2）に文型、語彙、文法活用などに重点を置いて編集された。しかし、日本語4までを包含し、且つ Common Core に準拠するスタンダードを見直す必要から、「グアム日本語プログラムスタンダード」の再編集に取り組んでいる。2020年のコロナ禍を受け、オンラインに対応した学習範囲や教授法の見直しも含め、編集を続けているが、現在は活動休止中である。

（「[日本語教育 国・地域別情報](#)」米国ページを参照。）

9. 評価・試験

2006年米国本土でのAP日本語プログラム開始とともに、グアムでもいくつかの高校でAP日本語試験が実施された。現在では毎年私立2校でAP日本語試験、1校でIB日本語試験が実施されている。全米日本語教師会（AATJ）が主催するNational Japanese Examは2012年から同じ私立校で継続して実施されていたが、現在は行われていない。SAT日本語試験では、日本語履修生が評価に値する得点を得ている。試験以外に、AATJ主催のNational Japanese Honor Society: JNHSが私立1校で2011-12年度から授与されている。（「[日本語教育 国・地域別情報](#)」米国ページを参照。）

10. 日本語教育略史

1970年代	公立高校ジョン・F・ケネディ（JFK）高校で日本語教育開始 ロータリークラブ軽井沢とグアムの文化交流開始
1970～80年代	公私立高校で相次いで日本語教育開始
1981～1983年	セント・ジョーンズ・スクールの小学校部門（2年制）で日本語クラス開講
1990年代初頭	日本語教師会発足（NPO）（途中休会）
1995年頃	ウンタラン中学校で日本語教育開始（現在は無い）
1997年	グアム在留アメリカ軍人子弟のための学校（グアムスクール）がアメリカ軍基地内に設立、日本語クラス開講
同年頃	日本語ソングフェスティバル開催開始（寸劇と合唱部門）
2005年頃	日本語ウルトラクイズ開催開始

2009 年	グアム日本語スタンダード編纂
2010 年	グアム日本語チャレンジボウル (Guam Nihongo Challenge Bowl: GNCB) 開催開始 (ウルトラクイズから再編、移行)
2011 年	私立ハーヴェスト高校で日本語クラス開講 JaLTA 改め GuNTA 登録 (ノンプロフィット)
2015-18 年	公立中学校共通 Teaching Plan 作成
2018-19 年	日本語ソングフェスティバル休止 日本語祭り開催開始 GuNTA: グアム日本語プログラムスタンダード再編集中
2019-20 年	私立セントアンソニー校で日本語クラス開講 (8 年生、1 セメスターの選択科目) 2 月日本語祭り開催 Guam Nihongo Challenge Bowl (GNCB) コロナ禍による自宅隔離のため休止 ロータリークラブ Exchange Program 中止
2020—21 年	新学期開始後、自宅隔離に移行、全校 on-line 授業開始 (8 月) 教師会月例会を Google Meet に移行 (9 月～) 日本領事館の協力により「バーチャル映画祭」「バーチャル日本語祭り」参加 サイモンサンチェス高校日本語休止
2021-2022 年	全校 Face to Face 或いはオンラインとの併用授業開始 Online Guam Nihongo Challenge Bowl 開催 (4～5 月)
2022-2023 年	サイモンサンチェス高校 日本語講座再開 Face to Face 教師会月例会再開 Online Guam Nihongo Challenge Bowl 開催予定 (5 月)
2023—24 年度	ジョージワシントン高校 日本語停止 ロータリークラブ Exchange Program 再開 Guam Nihongo Challenge Bowl フィジカルゲーム開催 (4 月)

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合もあります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)